



Imaging Team

SalesNote-FY1209

掲載内容

商品情報

- ・高感度でリーズナブルなカメラ“DOC-Cam Compact”、“DOC-Cam HR”がリリースされました
- ・Lumen Dynamics 社製 LED 光源 XLED1 に 540~600nm のモジュールが追加されました
- ・弊社のオリンパス倒立顕微鏡用電動 XY ステージ”B30102(Open モデル)”、“B30110(Closed モデル)”が IX73 にも対応しました
- ・浜松ホトニクス社製 ORCA Flash4.0 に USB3.0 対応モデルがリリースされました

Journal の紹介

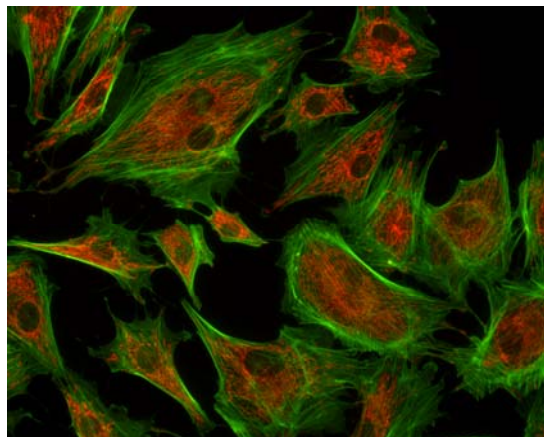
- ・Ratio イメージを簡単に作成可能な Journal

商品情報

・高感度でリーズナブルなカメラ“DOC-Cam Compact”、“DOC-Cam HR”がリリースされました

2012年6月のセールスノートにてご紹介させていただきましたMVDOC+キャンペーンのカメラ“DOC-Cam Compact”ですが、MVDOCとのコンパクトパッケージを定価45万円でご提供させていただきます。PCは既にお持ちの方、コストを抑えたい方に最適のパッケージです。

また、DOC-Cam HRはDOC-Cam Compactよりさらに高感度(最大量子効率約75%)、広視野(センサーサイズ 12.421 x 9.952 mm)、高解像(2736 x 2192 (4.54 x 4.54 um))が特徴のカメラです。



非冷却モデルながら高感度CCDチップの採用により蛍光画像も高いクオリティで取得することができます。もちろんMetaMorph、MVDOCにも対応しております。気になる価格ですが、**カメラドライバ込みで定価800,000円**と非常にリーズナブルな価格となっております。

MetaMorphの場合、このカメラとの組み合わせであれば、別途カメラオプション無しで、画像の取得が可能です(ただし、DOC-Cam HRのみとなり、Photometrics、ハマホト、Andor等のカメラをお使いいただく場合は別途カメラドライバが必要となります。)

既にMetaMorphをお持ちの方はメンテナンス期間中であれば、カメラのみの価格でお使いいただく事が可能です。

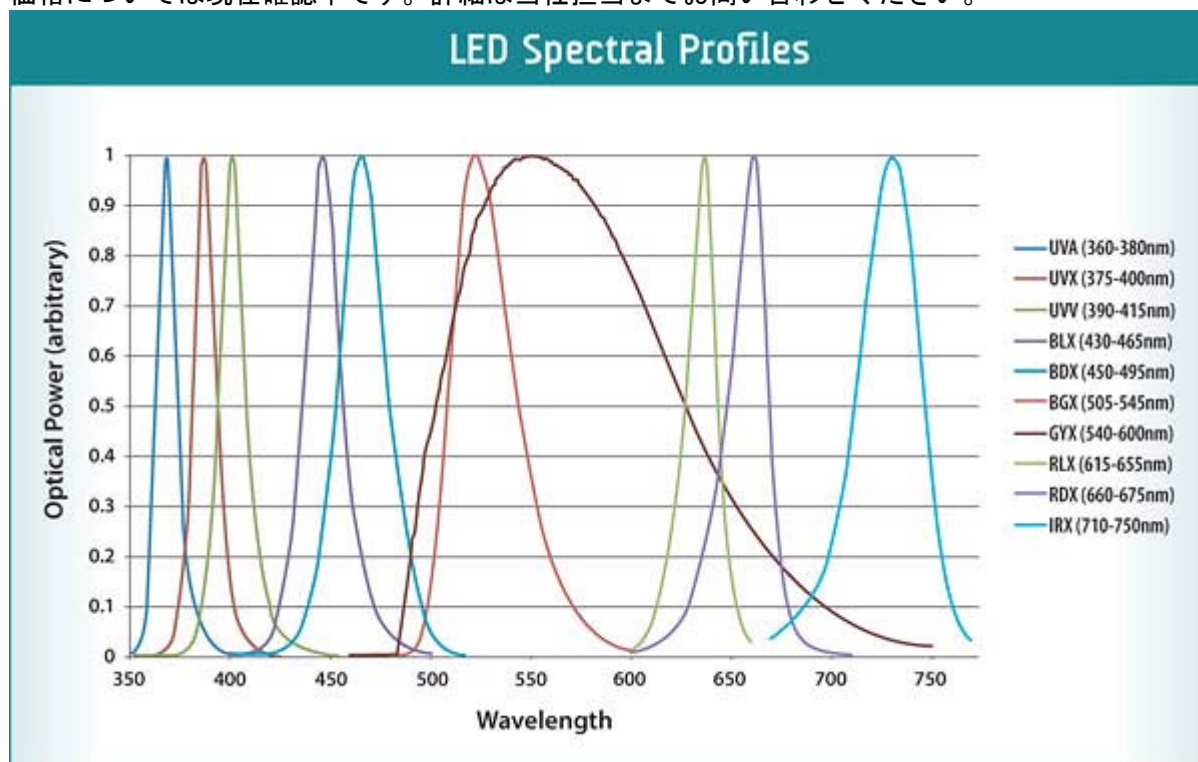
弊社ではDOC-Cam Compact, DOC-Cam HR共にデモ機をご用意しております。必要な方は当社担当までご用命ください。

・ Lumen Dynamics 社製 LED 光源 XLED1 に 540~600nm のモジュールが追加されました

高輝度、高い安定性、長寿命の新型LED光源“XLED”ですが、これまでG励起は525nmをピークとするモジュールしかない為、mCherryなどの550~600nm近辺の励起波長が必要とする蛍光プローブには難がございましたが、この度、540~600nmの帯域を有する新モジュール“GYX”がリリースされました。

これにより、現在バイオイメーシングで使用されている主要な蛍光プローブにほぼ対応可能となりました。

価格については現在確認中です。詳細は当社担当までお問い合わせください。



・ 弊社のオリンパス倒立顕微鏡用電動XYステージ”B30102(Openモデル)”、”B30110(Closedモデル)”がIX73にも対応しました

先月のセールスノートでご案内させていただきましたオリンパス社製倒立型顕微鏡IX73に対する電動ステージの対応の可否ですが、弊社、XY電動ステージ“B30102(Openモデル)”、“B30110(Closedモデル)”共にIX73およびIX83の両機種に装着できるように改修を行い、新たにリリースさせていただきます。

定価および品番の変更はございません。また、“B30110(Closedモデル)”はデモ機もご用意させていただきましたので、デモご希望の方は当社担当までご用命ください。

・浜松ホトニクス社製 ORCA Flash4.0 に USB3.0 対応モデルがリリースされました

浜松ホトニクス社から現在リリースされておりますsCMOSセンサーカメラ“ORCA-Flash4.0”ですが、現在のインターフェイスであるCameraLinkモデルに加え、10月1日からUSB3.0に対応したモデルがラインアップされます。

ラインアップは以下の通りとなります。

- ・ **Camera Link仕様(現行品) 定価 2,270,000円(税抜)**
C11578-22C (カメラ本体、Camera Linkインターフェースボード + ケーブル類)
- ・ **USB3.0仕様 定価:1,850,000円(税抜)**
C11578-22U (カメラ本体、USB3.0インターフェースボード + ケーブル類)

USB3.0対応のモデルは価格が従来に比べ安価になりますが、転送速度がCameraLinkと比べ遅くなります。

		CameraLink動作	USB3.0動作
カメラヘッドタイプ		強制空冷ヘッド	
撮像素子		科学計測用CMOSイメージセンサFL-400	
有効画素数		2048(H)×2048(V)	
画素サイズ		6.5 μm(H)×6.5 μm(V)	
有効画素サイズ		13.312mm(H)×13.312mm(V)	
ピクセルクロックレート	高速読み出し	-	-
	高精細読み出し	-	-
読み出し速度	高速読み出し	1x1	100フレーム/秒
		2x2	100フレーム/秒
	ビニング	4x4	100フレーム/秒
		8x8	-
			30フレーム/秒
			100フレーム/秒
			100フレーム/秒
			-

フレーム速度を重視されないユーザー様にはUSB3.0は有効ですが、速度を重視されるユーザー様には従来のCameraLinkモデルを推奨いたします。

なお、USB3.0モデルのMetaMorphへの対応は現在確認中です。確認が取れましたらこちらで再度ご案内いたします。

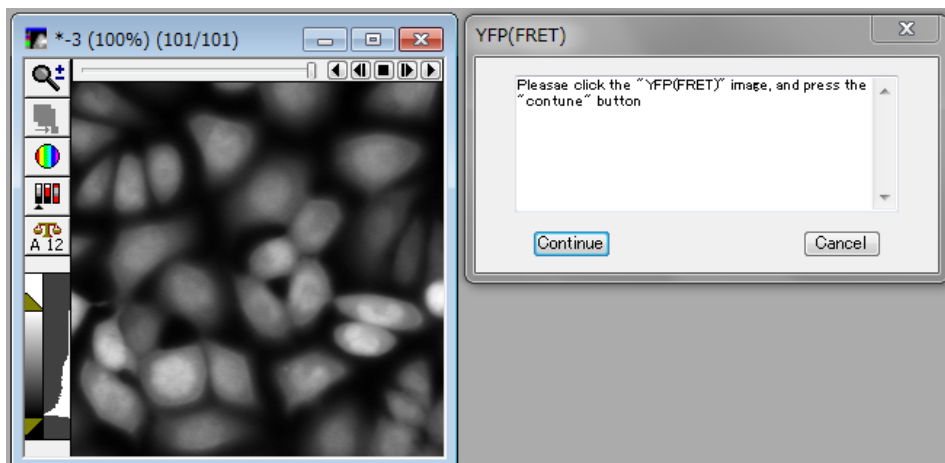
Journal の紹介

・Ratio イメージを簡単に作成可能な Journal

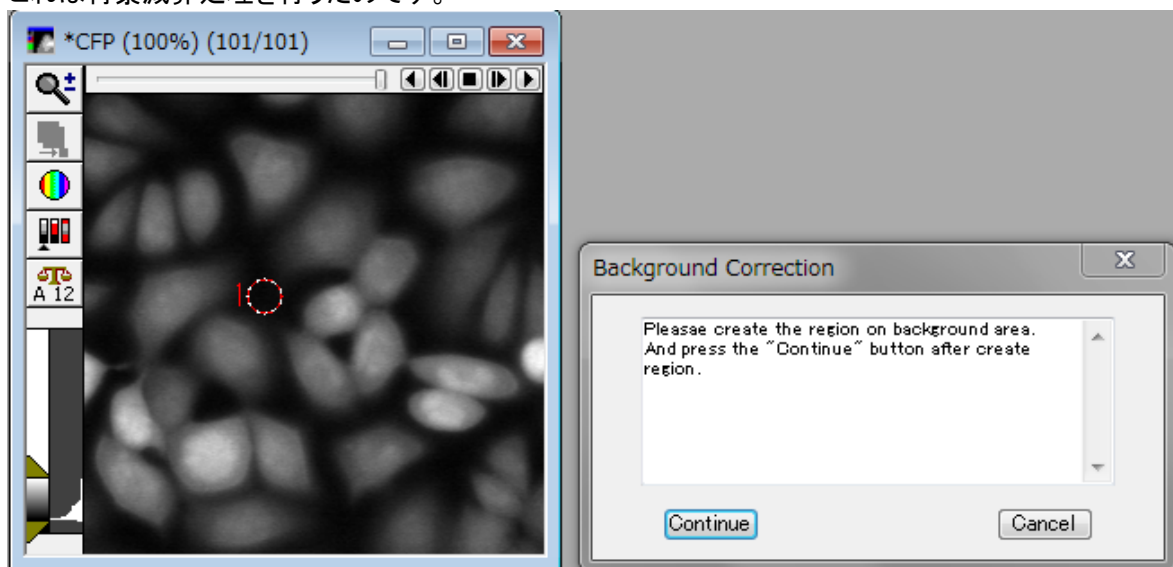
MetaMorphを使ってFRETやFura2などのRatio画像を作成することが出来る事は皆様すでにご存じの事かと思えます。

Ratio画像の作成手順については弊社Webマニュアルにも記述がございますが、ルーチンでRatio画像を作成したり、初めてのユーザーが作成される方々により簡単にRatio画像を作成していただけるようなJournalを作成いたしました。

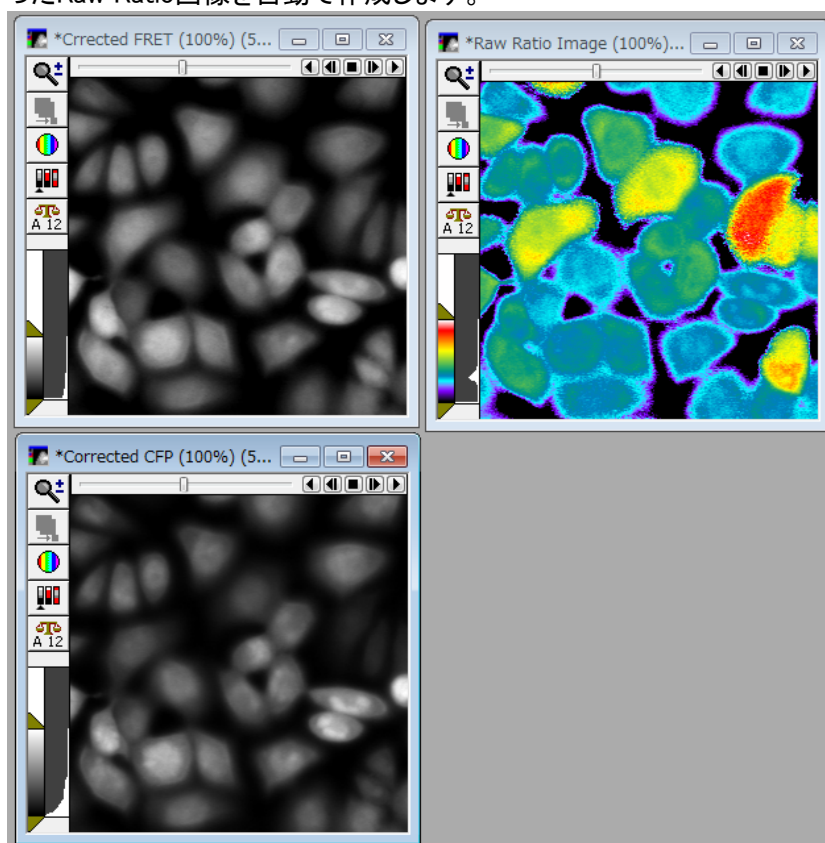
2波長のStack画像をLoad後、Journalを起動しますと、CFPIはどの画像？FRETはどの画像？とMetaMorphが確認してきます(本JournalはFRET用で作成しましたが、Fura2なども名称の変更で対応可能です)それぞれ対象の画像をクリックし、Continueボタンを押します



次に、背景のエリアにRegionを作成します。
これは背景減算処理を行うためです。



Region作成後、Continueボタンを押しますと、それぞれの2波長のStackから背景減算を行い、割算処理を行ったRaw Ratio画像を自動で作成します。



最低限の操作で誰にでも簡単に Ratio 画像が作成できます。
本 Journal がご必要な方は当社担当までお問い合わせください

以上